

# 一般社団法人システムイノベーションセンター 2026年度 第1回理事会 議案書

日時：2026年3月6日（水）13：00～14：30

開催形式：実会場による対面、および、Web 接続によるオンライン（MS Teams）開催  
（実会場：ダイワロイネットホテル会議室 東京都新宿区西新宿 6-12-39）

- 配布資料： 1) 2025 年度 SIC 活動報告 p. 2  
2) 2025 年度 決算書および決算関連資料、監査報告書 p. 6  
3) 2026 年度 SIC 事業計画・事業予算案 p. 12  
4) 2026 年度 SIC 実行委員名簿 p. 16  
5) 2026 年度 SIC 会員、学術会員 名簿 p. 17  
付録) SIC 第3次中期計画、分科会企画書、連続講座企画案 p. 20

## 議 事

I 【報告事項】				
番号	議題名	資料	報告すべきこと	報告者
I-01	SIC の現況・2025 年度の活動実績	1)	SIC の現況、主要イベント、フォーラム等の実施の開催等の 2025 年度の活動報告	理事・実行委員長 松本 隆明
I-02	2025 年度の会計報告	2)	2025 年度活動会計の執行状況および監査の報告	SIC 事務局
II 【決議事項】				
番号	議題名	資料	決定すべきこと	起案者
II-01	2026 年度の事業計画・予算方針	3)	2026 年度の事業計画と予算案の承認	代表理事・センター長 浦川 伸一 理事・実行委員長 松本 隆明
II-02	2026 年度 SIC 実行委員の承認	4)	2026 年度 SIC 実行委員会の構成と活動方針の承認	理事・実行委員長 松本 隆明
III 【協議事項】				
番号	議題名	資料	協議すべきこと	提起者
III-01	次年度 SIC の活動体制について	5)	2026 年度の会員、役員等、SIC の活動体制の確認	代表理事・センター長 浦川 伸一
III-02	SIC の活動の活性化について		分科会の設立、戦略提言の実効化、人材育成のための研修講座の開設等、SIC の活動の活性化について	代表理事・センター長 浦川 伸一

2026年度 第1回SIC理事会（2026年3月6日）

一般社団法人システムイノベーションセンター 2026年度役員（理事・監事）

2024年度総会にて選出

	選任区分	氏名	所属	役職等
1	代表理事・センター長	浦川 伸一	株式会社スカイエージ / 株式会社スカイエージネクスト	代表取締役
2	業務執行理事・実行委員長	松本 隆明	元 独立行政法人情報処理推進機構	元 顧問
3	理事・学術協議会主査	藤田 政之	金沢工業大学 東京工業大学	教授 名誉教授
4	理事	青山 和浩	東京大学大学院	工学系研究科・人工物工学研究センター 教授
5	理事	遠藤 薫	学習院大学	名誉教授
6	理事	岡本 浩	東京電力パワーグリッド株式会社	取締役・副社長執行役員
7	理事	鹿子木 宏明	横河電機株式会社	執行役 デジタルソリューション統括本部デジタル戦略本部長
8	理事	木谷 昭博	マツダ株式会社	常務執行役員兼CIO、業務イノベーション担当
9	理事	久間 和生	国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構	理事長
10	理事	齊藤 裕	独立行政法人情報処理推進機構 (IPA)	理事長 兼 デジタルアーキテクチャ・デザインセンター長
11	理事	島田 太郎	株式会社東芝	代表取締役 社長執行役員 CEO
12	理事	服部 正太	株式会社 構造計画研究所ホールディングス	取締役 代表執行役
1	監事	船橋 誠壽	特定非営利活動法人 横断型基幹科学技術研究団体連合	(元) 理事
2	監事	新谷 勝利	早稲田大学	招聘研究員

【報告事項：1、2】： SIC の現況・2025年度の活動実績、および、2025年度の会計決算の報告

-----

資料1) 2025年度事業報告

## 2025年度SIC活動報告

2026. 3. 6

### 1. 活動の概況

2025年度は、SICは設立後7年目にあたり、3年ごとに制定しているSIC中期計画の第3次計画を制定した。議案書末尾にSIC第3次中期計画の概要を付す。

第3次中期計画では、システム化の目指すものを問い、「卓越システム」の構築の推進を通して人中心社会の豊かさを協創する「システム4.0」を提唱した。また、データ共有による「システム産業」の創出と活性化を促すことで、豊かな社会の協創に向かう活動の推進を目標に据えている。

この第3次中期計画に基づく本年度の活動の特記事項としては、主要なイベントとして、上記の人中心社会の豊かな社会を“つながり”によって協創していくことをテーマに、「第2回システム人交流会」、「SICシンポジウム2025」、「第3回SIC経営者研修講座」を、対面、および、一部オンライン併用にて開催したことにある。いずれも盛況で、好評を得ており、次年度からのSICの活動における、主要な指針を得ている。

第2回システム人交流会は、SICが主催する各種研修講座を受講した「システム人」が企業の枠を超えてモチベーションを共有するとともに、参加者同士の人的チャネルの構築も図る場として「豊かな社会を協創するシステムへ」を標題として開催され、SICの活動の中でのシステム人への期待、システム人にとってはそのポテンシャルをどう生かしていくかについて意見交換を行った。

SICシンポジウム2025では、3年間にわたりほとんどの会員企業からの参画を得て、6つの分野を対象とした戦略提言活動について、すべての分野の提言策定が出揃ったことを受け、このSIC戦略提言活動の成果の公表を行い、それに基づき今の日本にどのようなシステムを構築すべきか、日本のシステム構造をどのように作りあげていくべきかを議論した。SIC戦略提言については、全体をまとめた冊子を7月に発行し、また、シンポジウムでの本提言活動に関するパネルディスカッションの記録も、冊子として10月に発行した。

第3回SIC経営者研修講座では、「“閉じる”から“つなぐ”へ：データ戦略が変える競争優位の本質」と題し、SIC理事を中心としたパネル講演とディスカッションを行った。

定常活動としては、2024年度定時社員総会を本年3月14日に、また、第1回理事会を同日に開催し、活動計画、予算、役員陣容等が承認され、2025年度の活動を本格化し、12月17日の第2回理事会において、締めくくりの総括を行った。

その他、SIC会員へのシステム化に関する啓蒙を図る「SICフォーラム」を、今年度は7回開催し、AI、量子などの最先端技術の産業化に向けた取り組みや、持続可能性と価値創造の

ためのシステム基盤などについての講演を行った。

一方で、人材育成協議会の開催が年度当初に困難な状況にあったため、人材育成のための研修講座の計画の調整が整わず、開催が見送られた。計画を引継ぎ、次年度に複数の研修講座の開設を図ることとした。また、新しい分科会の設立が延び延びになってしまっている。実行委員会にて内容を詰めており、2025年度での立ち上げを計画している。

以下に、それぞれの活動ごとに、詳細を記す。

### 2. 実行委員会の活動

SIC実行委員会は、下記の日程で毎月1回、計12回を開催した（1～11月はオンラインで、12月は対面にて開催）。各回とも20人近い委員の参加により活発な議論を行った。

1月21日、2月18日、3月18日、4月22日、5月20日、6月24日、7月22日、

8月26日、9月16日、10月14日、11月18日、12月16日

実行委員会では、分科会や戦略提言等の活動の状況について委員間で状況を共有し、その成果の生かし方について検討を行うとともに、SICフォーラム、研修講座、戦略提言シンポジウム等のイベントの企画についても継続的に議論を行った。特に、AI関連での新しい分科会の設立に向けて、現状の分析を交えて検討をした。また、中期と期末にはSIC事務局から予算の執行状況と執行予定を報告するとともに、活動計画の遂行に向けての議論を行った。

実行委員会での議事については、開催日の翌月に発行のSICニュースレターにて、毎回の報告を掲載している。

### 3. 分科会の活動

「システムオブシステムズ分科会」は、人を要素として取り込んだ多階層のシステムのモデル化や将来像を題材に、SoSの考え方について議論を深め、2024年度末に報告書をまとめている。その活動成果報告会を、2月27日に開催した。CPHS（Cyber Physical Human System）のアーキテクチャーの提唱と、EVドライバー行動変容システム、航空管制システムなどの事例をもとに、「人間中心のシステム設計」の重要性が強調された。

AIや量子技術などの先端システム技術に関連した、新しい分科会の設立を実行委員会等で模索した。2026年度の主要計画の一つとされた。

### 4. 人材育成協議会の活動

前記のように、人材育成のための研修講座の計画について、学術協議会特別講義の連続開催を企画したが、その実現の調整が整わず、今年度は開講が見送られた。計画を引継ぎ、2026年度に、その他の企画も含めて複数の研修講座の開設を図ることとした。

### 5. 戦略委員会の活動

1月20日に委員会を開催し、SIC 第3次中期計画策定、2025年度のSICの活動の基本方針策定について協議をした。

SICの第3次中期（2025年から3カ年）計画の柱として、社会を豊かにするシステム作りを目指すという提案があり、議論を重ね、中期計画案を策定した。この中期計画に沿って、2025年度のSICの活動を進めることとした。

一方、3年間にわたりほとんどの会員企業からの参画を得て、活動を展開してきたSIC戦略提言活動にて、（1）ヘルスケア、（2）エネルギー、（3）ロジスティクス、（4）金融、（5）科学技術、（6）防災・レジリエンスの、6つの分野を対象とした提言策定が出揃った。これを受け、日本にどのようなシステムを構築すべきか、日本のシステム構造をどのように作りあげていくべきかを、策定した戦略提言を公表し、それに基づいて議論をするシンポジウムの開催を決めた。

この戦略提言シンポジウムでは、6分野の戦略提言を軸に、その根底にある日本の産業構造システムの課題を全体から見直して行くとし、開催実行WGからのシンポジウムのタイトル、スローガンの提案と、2025年半ばに開催するという計画を了承した。

### 6. SICフォーラム

以下の7回の開催をおこなった。

- ・第1回（3月28日） 岡田俊輔氏（株式会社東芝）  
【タイトル】「量子技術の産業化に向けた取り組み（日本の現状と可能性）」  
【参加者数】78名
- ・第2回（4月16日） 古関 隆章氏（東京大学大学院）  
【タイトル】「人口減少期の日本における持続可能な公共交通自動化技術」  
【参加者数】44名
- ・第3回（6月4日） 鹿子木宏明氏（横河電機株式会社）  
【タイトル】「AI ファースト・マニュファクチャリング」  
【参加者数】71名
- ・第4回（7月3日） 橋高康朗氏（アメリス株式会社）  
【タイトル】「日本のホワイトカラー産業へのAIエージェント導入の可能性と課題」  
【参加者数】64名
- ・第5回（8月27日） 木谷昭博氏（マツダ株式会社）  
【タイトル】「人とITの共創による価値創造」  
【参加者数】43名
- ・第6回（11月27日） 高林 幹夫氏（三菱電機株式会社）  
【タイトル】「顧客との共創によるイノベーションを実現するシステム基盤」  
【参加者数】40名
- ・第7回（12月17日） 藤井 享氏（豊橋技術科学大学総合教育院）  
【タイトル】「マーケティング5.0（デジタルネイティブ）の時代における製造DXの課題とは」  
【参加者数】39名

いずれも、SICニュースレターにてレポートと共に開催報告を掲載している。

### 7. 主要イベントの開催

前述のように、本年度は、主要なイベントとして、第2回SIC「システム人交流会」（6月21日、参加者26名）、「SICシンポジウム2025 日本をシステムから考える」（9月9日、参加者49名）、「第3回SIC経営者研修講座」（11月11日、参加者70名）を開催した。

システム人交流会については、SICニュースレターVol. 7.7（25年7月発行）に、SICシンポジウム2025については、同Vol. 7.10（25年10月発行）に、第3回SIC経営者研修講座については、同Vol. 7.12（25年12月発行）に、開催報告を掲載している。SICニュースレターでのそれぞれの開催報告の一部を、議案書末尾に付録として掲載する。

### 8. 広報活動

「SICニュースレター」を毎月発行。各号では、SICの活動状況報告とともに、以下に示すように有識者の方々に貴重な論説や寄稿を執筆頂いている。

- ・69号：【SIC戦略提言要約シリーズⅣ】「ロジスティックス」サブワーキンググループ戦略提言  
「ロジスティックス分野におけるシステム設計の提案」
- ・70号：【論説】「DX時代の倫理と可能性～人間と技術が共創する未来のために～」  
学習院大学名誉教授 遠藤 薫氏
- ・71号：2024年度SIC社員総会（2025年3月14日開催）報告  
【SIC戦略提言要約シリーズⅤ】「金融」サブワーキンググループ戦略提言  
「マイナンバー及びマイナンバー制度の利活用推進に向けた提言」
- ・72号：【技術紹介】「国際電気のデジタルソリューションに向けた取り組み」  
株式会社国際電気 廣岡慎一郎氏
- ・73号：【寄稿】「ロボットとシステム」  
大阪工業大学 ロボティクス&デザイン工学部 大須賀 公一氏

- ・74号：【エッセイ】Unity 3.0：エネルギーと情報をつなぐ新文明論 ―システム思考とワット・ビット連携にもとづくイチゴ大福的宇宙仮説―  
東京電力パワーグリッド株式会社 取締役副社長執行役員 岡本浩氏
- ・75号：【SIC戦略提言要約シリーズVI】「防災・レジリエンス」サブワーキンググループ戦略提言―  
「『自助・共助・公助』を支える自律分散型の防災アーキテクチャー設計の提案」
- ・76号：【技術紹介】「原子力防災と避難シミュレーション」  
株式会社構造計画研究所 米山 照彦氏、ほか
- ・77号：【寄稿】「グローバル先進工場との比較による日本の製造 DX の現状と課題」  
豊橋技術科学大学総合教育院 教授 藤井 享 氏
- ・78号：【寄稿】「人材多様化時代を生きる個人」  
法政大学 キャリアデザイン学部 教授 武石 恵美子氏
- ・79号：【寄稿】「カーボンニュートラルに向けた大阪ガスのメタネーション技術開発～大阪・関西万博でのメタネーション実証を終えて～」  
大阪ガス株式会社 横山 晃太氏

上記の論説・寄稿については、2025年度に執筆頂いた原稿をSICニュースレター「論説」集（第6巻）としてまとめ、関係機関に配布した。

この他の広報活動として、主に、非会員の一般向けとしてメールマガジン「SIC便り」を今年度も継続して定期的に発行するとともに、SICの紹介パンフレットを作成して広く配布することで新たな会員獲得に努めた。

また、SNSを通じた広報活動にも、昨年度から力を入れることにし、YouTubeとホームページに、SICフォーラム、研修講座等の講演の記録画像の掲載を始めている。その他、Facebook、XなどにもSIC主催イベントの案内などの掲載を行っている。

### 9. 会員状況

2025年12月末日現在の会員状況は以下のとおりである。

- (1) 正会員  
21社
- (2) 準会員  
4社（インキュベーション会員1、人財育成限定会員3）
- (3) 学会会員  
49名
- (4) 個人会員  
8名

以上

2026年度 第1回SIC理事会（2026年3月6日）

資料2-1)

システムイノベーションセンター2025年度 決算書

2026年2月10日

■収入予算と実績

項番	収入科目	会員数	2024年度実績	2025年度予算	2025年度実績	予算差異
	(1)年会費収入					
1	・正会員	21社	¥12,800,000	¥11,800,000	¥10,450,000	▲ 1,350,000
				¥400,000	¥0	▲ 400,000
2	・準会員	3社	¥150,000	¥250,000	¥250,000	0
				¥200,000	¥100,000	▲ 100,000
3	・学術会員	47名	-	-	-	
4	・個人会員	8名	¥40,000	¥40,000	¥30,000	▲ 10,000
	会費収入 小計		¥12,990,000	¥12,690,000	¥10,830,000	
5	(2)受託収入(公的機関からの調査委託費)					0
6	(3)講習会等参加費(会員外からの収入含む)		¥1,561,000	¥700,000	¥148,000	▲ 552,000
7	(3)共同研究実施費用					0
8	(4)利息 その他		¥2,963		¥35,360	35,360
9	会費以外の収入 小計		¥1,563,963	¥700,000	¥183,360	▲ 516,640
10	当期 収入総計		¥14,553,963	¥13,390,000	¥11,013,360	

■実行予算と実績

	支出科目	2024年度実績	2025年度予算	2025年度実績	予算差異
11	(1)事業費 小計	¥5,164,512	¥7,090,000	¥3,964,747	
12	・総会運営		¥300,000	¥144,100	▲ 155,900
13	・理事会・戦略委員会 運営費	¥409,240	¥100,000	¥65,000	▲ 35,000
14	・SIC特別調査費	¥0	¥700,000	¥0	▲ 700,000
15	・SIC戦略提言書 製本・配布	¥0	¥100,000	¥365,200	265,200
16	・戦略提言シンポジウム 運営費	¥0	¥1,500,000	¥1,117,382	▲ 382,618
17	・実行委員会 運営費	¥0	¥80,000	¥58,100	▲ 21,900
18	・分科会・WG・人材育成協議会の運営費				
19	分科会謝礼	¥289,565	¥480,000	¥0	▲ 480,000
20	活動費(WG活動 調査委託費)	¥47,000	¥500,000	¥0	▲ 500,000
21	・ケーススタディによるシステム構築講習会	¥1,040,601			
22	・システム塾運営費	¥0	¥700,000	¥574,031	▲ 125,969
23	・システム人交流会				
24	・研修講座 講習会開催費	¥2,300,774	¥400,000	¥0	
25	・SIC産学交流会運営費			¥0	
26	・SICフォーラム運営費 戦略フォーラム	¥172,625	¥300,000	¥89,097	▲ 210,903
27	・経営者研修講座 パネルディスカッション		¥900,000	¥700,887	▲ 199,113
28	・広報活動 ニュースレター発行、HPによる情報発信、その他	¥493,373	¥500,000	¥351,850	▲ 148,150
29	広報資料(パンフレット等)作成費	¥134,200	¥100,000	¥58,290	▲ 41,710
30	広報強化 (プレス発表、Youtube等)による	¥12,560	¥130,000	¥33,000	▲ 97,000
31	SICの広報誌	¥0	¥100,000	¥113,300	13,300
32	・外部団体との連携活動の強化	¥0	¥30,000	¥0	▲ 30,000
33	・SIC活動のシステム化情報基盤の高度化 (Teams, ZOOM, Adobe等)の活用費	¥194,574	¥100,000	¥224,510	124,510
34	・租税公課	¥70,000	¥70,000	¥70,000	0
35	(2)管理費 小計	¥8,413,947	¥8,370,000	¥8,253,343	▲ 116,657
36	・事務所 賃貸・共益費	¥3,108,480	¥3,240,000	¥2,945,764	▲ 294,236
37	・人件費	¥4,909,649	¥4,900,000	¥5,033,968	133,968
38	・事務管理の充実(備品類の整備等)	¥97,227	¥70,000	¥24,750	▲ 45,250
39	・事務所 消耗品、その他諸経費	¥139,611	¥30,000	¥34,569	4,569
40	・保守費	¥92,803	¥30,000	¥103,400	73,400
41	・旅費・交通費 国内/海外	¥0	¥10,000	¥18,940	8,940
42	・郵送費	¥4,951	¥20,000	¥31,047	11,047
43	・通信費	¥48,364	¥30,000	¥42,645	12,645
44	・雑費	¥2,962	¥10,000	¥2,750	▲ 7,250
45	・振込手数料	¥9,900	¥30,000	¥15,510	▲ 14,490
46	(3)予備費	¥0	¥1,000,000	¥0	
47	実績及び実行予算計	¥13,578,459	¥16,460,000	¥12,218,090	▲ 4,241,910
48	当期収支損益	971,226	▲ 3,070,000	▲ 1,204,730	1,865,270

■繰越金 期末正味財産

	2024年度実績	2025年度予算	2025年度実績	
49	年度収支額	971,226	▲ 1,204,730	
50	期首繰越金	¥24,343,040	¥25,314,266	¥25,314,266
51	期末繰越金	¥25,314,266	¥22,244,266	¥23,646,710

資料2-2)

2026年2月10日

## 貸借対照表

2025年1月1日～2025年12月31日

項番	資産の部		負債の部	
	科目	金額	科目	金額
1	[流動資産]		[流動負債]	
2	現金・預金	¥23,626,710	未払金	
3	未収会費		未払費用	¥187,110
4	未収金	¥20,000	前受金	¥0
5	前払金	¥0	前受会費	¥0
6	前払費用	¥0	預り金	¥0
7	仮払金	¥0	短期借入金	¥0
8				
9	流動資産合計	¥23,646,710	流動負債合計	¥187,110
10	[固定資産]		[固定負債]	
11				
12	(有形固定資産)		減価償却費	¥305,352
13			固定負債合計	¥305,352
14			負債合計	¥492,462
15				
16			正味財産の部	
17	(無形固定資産)		[指定正味財産]	¥0
18			寄付金	¥0
19				
20			[一般正味財産]	
21			前期繰越正味財産	¥25,314,266
22	固定資産合計		当期正味財産増減額	(¥1,204,730)
23				
24			正味財産合計	¥24,109,536
25	資産合計	¥23,646,710	負債・正味財産合計	¥23,646,710

資料2-3)

2026年2月10日

正味財産増減計算書

一般社団法人システムイノベーションセンター

2025年1月1日～2025年12月31日

項番	科目	2024年度実績	2025年度予算	2025年度実績	備考(増減)
1	I 一般正味財産増減の部				
2	1. 経常増減の部				
3	(1) 経常収益				
4	受取会費				
5	受取正会員会費	¥12,800,000	¥12,200,000	¥10,450,000	▲ 2,350,000
6	受取准会員会費	¥150,000	¥450,000	¥350,000	
7	受取個人会員会費	¥40,000	¥40,000	¥30,000	▲ 10,000
8	事業収益				0
9	受取参加費	¥1,561,000	¥700,000	¥148,000	▲ 1,413,000
10	受取共同研究費	¥0		¥0	0
11	受取補助金等				0
12	受取寄付金				0
13	寄付金				0
14	雑収益				0
15	受取利息 その他	¥2,963		¥35,360	32,397
16	経常収益計	¥14,553,963	¥13,390,000	¥11,013,360	▲ 3,540,603
17	(2) 経常費用				
18	事業費				
19	・総会運営		¥300,000	¥144,100	▲ 200,140
20	・理事会・戦略委員会 運営費	¥409,240	¥100,000	¥65,000	
21	・SIC特別調査費	¥0	¥700,000	¥0	0
22	・SIC戦略提言書 製本・配布	¥0	¥100,000	¥365,200	365,200
23	・戦略提言シンポジウム 運営費	¥0	¥1,500,000	¥1,117,382	1,117,382
24	・実行委員会 運営費	¥0	¥80,000	¥58,100	58,100
25	・分科会・WG・人材育成協議会の運営費				
26	分科会謝礼	¥289,565	¥480,000	¥0	▲ 289,565
27	活動費(WG活動 調査委託費)	¥47,000	¥500,000	¥0	▲ 47,000
28	・経営者研修講座 パネルディスカッション		¥900,000	¥700,887	700,887
29	・ケーススタディによるシステム構築講習会	¥1,040,601			▲ 1,040,601
30	・システム塾運営費				574,031
31	・システム人交流会		¥700,000	¥574,031	
32	・研修講座 講習会開催費	¥2,300,774	¥400,000	¥0	▲ 2,300,774
33	・SIC産学交流会運営費				0
34	・SICフォーラム運営費 戦略フォーラム	¥172,625	¥300,000	¥89,097	▲ 83,528
35	・広報活動 ニュースレター発行、HPによる情報発信、その他	¥493,373	¥500,000	¥351,850	▲ 141,523
36	広報資料(パンフレット等)作成費	¥134,200	¥100,000	¥58,290	▲ 75,910
37	広報強化 (プレス発表、Youtube等)による	¥12,560	¥130,000	¥33,000	20,440
38	SICの広報誌	¥0	¥100,000	¥113,300	113,300
39	・外部団体との連携活動の強化	¥0	¥30,000	¥0	
40	・SIC活動のシステム化情報基盤の高度化 (Teams、ZOOM、Adobe 等の活用費)	¥194,574	¥100,000	¥224,510	29,936
41	・租税公課	¥70,000	¥70,000	¥70,000	0
42	事業費計	¥5,164,512	¥7,090,000	¥3,964,747	▲ 1,199,765
43	管理費				
44	・事務所 賃貸・共益費	¥3,108,480	¥3,240,000	¥2,945,764	▲ 162,716
45	・人件費	¥4,909,649	¥4,900,000	¥5,033,968	124,319
46	・事務管理の充実(備品類の整備等)	¥97,227	¥70,000	¥24,750	▲ 72,477
47	・事務所 消耗品、その他諸経費	¥139,611	¥30,000	¥34,569	▲ 105,042
48	・保守費	¥92,803	¥30,000	¥103,400	10,597
49	・旅費・交通費 国内/海外	¥0	¥10,000	¥18,940	18,940
50	・郵送費	¥4,951	¥20,000	¥31,047	26,096
51	・通信費	¥48,364	¥30,000	42,645	▲ 5,719
52	・雑費	¥2,962	¥10,000	¥2,750	▲ 212
53	・振込手数料	¥9,900	¥30,000	¥15,510	5,610
54	管理費計	¥8,413,947	¥8,370,000	¥8,253,343	▲ 160,604

# 2026年度 第1回SIC理事会（2026年3月6日）

## 正味財産増減計算書

一般社団法人システムイノベーションセンター

2025年1月1日～2025年12月31日

項番	科目	2024年度実績	2025年度予算	2025年度実績	備考(増減)
55	予備費	¥0	¥1,000,000	¥0	0
56	経常費用計	¥13,578,459	¥16,460,000	¥12,218,090	▲ 1,360,369
57	評価損益等調整前当期経常増減額	¥971,226	¥-3,070,000	¥-1,204,730	▲ 2,175,956
58	当期経常増減額				
59					
60					
61	2. 経常外増減の部				0
62	(1) 経常外収益				0
63	経常外収益計	¥0	¥0	¥0	0
64	(2) 経常外費用				0
65	経常外費用計	¥0	¥0	¥0	0
66	当期経常外増減額	¥0	¥0	¥0	0
67					0
68	当期一般正味財産増減額				0
69	一般正味財産期首残高	¥24,343,040	¥25,314,266	¥25,314,266	971,226
70	一般正味財産期末残高	¥25,314,266	¥22,244,266	¥23,646,710	▲ 1,667,556
71					0
72	II 指定正味財産増減の部				0
73	受取補助金等	¥0	¥0	¥0	0
74	一般正味財産への振替額	¥0	¥0	¥0	0
75					0
76					0
77	III 正味財産期末残高	¥25,314,266	¥22,244,266	¥23,646,710	▲ 1,667,556

資料2-4)

2026年2月10日

一般社団法人システムイノベーションセンター 第3期事業報告  
 附属明細書 財務諸表に関する注記

1 通帳残高と現金

2025年12月31日時点での通帳残高,および現金残高は下記の通り

①SICセンター預金口座	¥23,607,710
②現金残高	¥19,000
計	¥23,626,710

2 繰越金の扱いと未払金・未収金の補足

繰越金は、当法人の継続的な事業運営の観点(継続性と財務の安全性・安定性)を考慮して運営している。

2025年度は、期末の11月にイベント事業を開催したために未払金・未収金が発生した。

未払金はカード決済によるため銀行引き落としが期をまたがった処理となった。

未収金は、参加した企業の支払いルールにより2026年度振込となったため。

3 備品

SIC備品として今年度以下の事務机を購入した。

事務机		1台	事務所備品
-----	--	----	-------

SIC備品として購入した主な品目は下記の通り。

ワイヤレスピンマイク	1式	
デュアルチャンネルマイクシステムレシーバ・トランスミッター	1式	
OKNWifi6 無線LAN子機	1式	
パワファローWiFi無線ルータ	1式	
その他、ハイブリッド映像システムに要する備品1式 LANケーブル等	1式	

資料2-5)

2026年3月6日

一般社団法人システムイノベーションセンター  
代表理事・センター長 浦川 伸一 殿

一般社団法人システムイノベーションセンター

監事 舩橋 誠壽

監事 新谷 勝利



2025年度（令和7年度）監査に係わる報告について

2025年度の一般社団法人システムイノベーションセンターの業務及び会計について監査を実施しましたので、下記のとおり報告いたします。

記

1. 監査方法

監事は、社員総会、理事会、その他重要な会議に出席するとともに、主な発行文書、会計書類等を閲覧しました。また、業務執行理事、事務局長から当法人の運営状況について聞き取りを行い、意見交換のうえ業務監査を実施しました。

2. 監査の結果

2025年度は当法人設立7年目にあたり、第3次中期計画推進の初年度でした。本年度は、中期計画に掲げる「人中心の豊かな社会を“つながり”によって協創する」を念頭に、これまでの取組を発展させて「システム人交流会」、「シンポジウム2025ー日本をシステムから考える」、「経営者研修講座ー“閉じる”から“つなぐ”へ：データ戦略が変える競争優位の本質」を開催し、多くの参加者を得て有意義な方向付けが行われました。これらの活動は、当法人の目的に沿ったものとして評価されます。

- (1) 事業報告書は当法人の業務運営状況を正しく示していると認めます。
- (2) 決算報告書は当法人の財産及び損益の状況を正しく示していると認めます。

なお、第3次中期計画の達成に向けて、本年の成果を効果的に発展・活用すべく、学術協議会からの一層の知の注入を図るとともに企業間データ連携・利活用イニシアティブと協調することが望まれます。

また、法人の重要な経営指標である会員数は、設立当初と比較して減少傾向が継続しており、今後の持続的な活動基盤の観点から、理事会において検討と対応が求められるものと考えます。

以上

**【決議事項：3】 2026年度の事業計画・予算方針**

2026年度の事業計画及び予算について承認を求める。

添付資料

3-1) 2026年度事業計画

3-2) 2026年度予算書

----- )  
**資料3-1) 2026年度事業計画**

## 2026年度SIC活動計画

SICは設立後7年を経過し、日本の産・官・学におけるシステム化を推進するための分析、知見、外部発信を蓄積してきている。2026年度は、3年ごとに制定しているSIC中期計画の第3次2年目にあたる。第3次中期計画では、「卓越システム」の構築の推進を通して人中心社会の豊かさを協創する「システム4.0」を提唱し、また、データ共有による「システム産業」の創出と活性化を、豊かな社会の協創に向けて促す活動の推進を目標に据えている。そこで、具体的な活動では、システム4.0を包含するより大きな社会目標であるSociety5.0の実現に向け、サイバーとフィジカルの融合化を推進することを念頭に置いて、外部の組織、団体とも連携した活動の計画を進める。

2025年度には、SIC戦略提言活動の成果の展開として、システムの「質」を重視した「社会にとっての良いシステム」を再定義しつつ、卓越システムの構築普及を目指す、SICシンポジウムの開催等を行った。2026年度も、この方針を継続して、さらに、実社会にて着地・実現させる活動を集中的に行っていくことを柱に、提言に賛同する仲間作りをして、より実効性のある成果を生み出していきたい。

また、同時に、これまでのSICフォーラム開催、ニュースレターの発刊、人財育成のための各種講習会の開催などの活動を活性化すると同時に、SICフォーラム等の継続的に実施する事業に加え、現在以上にSICの存在感を増すような外部発信を強化したい。

これらの活動を通して、「ウラノス・エコシステム」の推進への関与を始めとして、SICの活動の奥行きを深め、その目標の社会実現を具体的に図っていく道を探りたい。

具体的には以下のような事業を想定して、上記の目標の実現に向けて、要点を絞って詳細を検討する。まず、活動計画を7つの事業グループ化して実現性を整理する。

### 活動計画の具体化（7事業グループ）

1. 戦略提言の外部連携化による、システム4.0（人中心システム）の普及
2. データ共有基盤の整備と「システム産業」創出（OEPCとの連携）
3. 分科会の立ち上げ（AI等）
4. システム人材育成講座
5. SICフォーラム継続開催
6. 主要イベントの開催
7. 広報強化（NL・HP・SNS）

## 2026年度 第1回SIC理事会（2026年3月6日）

活動計画の具体化は次表のようにまとめられる。

事業名	目的	活動の内容	期限
戦略提言の外部連携化	提言を共同プロジェクト化する	戦略提言の表題を冠した外部連携協定を、RRI、DADC等と締結し、活動を開始する	年度前半
データ共有基盤の整備と「システム産業」創出（OEPCとの連携）	SIC流「データ共有基盤」の構築	第3回経営者研修講座の各講演での提言の整理と具体化	年度前半
分科会立ち上げ（AI等）	システム技術テーマでの実効的議論の場を築く	（AI関連での）分科会設置・初回会合実施	年度前半
システム人材育成講座の開催	システムアーキテクト育成	SICで積み上げてきた教材、ノウハウ、学会員の動員等を活用した、研修コース開講・受講者確保	年度内
SICフォーラムの継続開催	会員向け情報提供と交流促進	年間6~8回開催（テーマ、講師の選定方法を検討）	年間
主要イベントの開催	シンポジウム、交流会等の開催による、SICの存在価値の確立	少なくとも、ビッグイベントを1回開催（エネルギー、ロジスティクス政策提言を、実行段階に落とし込むシンポジウム）	年度内
広報強化（NL・HP・SNS）と会員拡大	会員にとっての参加価値の向上、外部認知と会員増加	ニュースレター定期発行・HP更新、システム技術関連の資料、冊子などの発行、配布	継続

以下に、活動計画の具体化のための要点を述べる。

### 1. 活動具体化の目的

- システム4.0の普及：人中心の豊かな社会を目指すシステム設計思想の普及。
- 戦略提言の実装：6分野の提言を外部パートナーと連携して社会実装へ移行。
- 外部発信と存在感向上：イベント・ニュースレター・研修等で認知と影響力を強化。
- システム人材の育成：システムアーキテクト等の育成プログラム整備。
- 分科会設置：AI、量子技術、サーキュラーエコノミー等の分科会立ち上げ。

### 2. SICの主要施策としての事業の位置づけ

#### 1. 第3次中期計画の具体的な前進を図る

システム化は何のためかを問い、人を中心とした社会の豊かさを拡張する「システム4.0」の普及を図り、各分野に普及・推進する。すなわち、システム4.0は、現在提唱されているCPHS（Cyber Physical Human System）と相通じる等、その性格を具体化して、普及・推進を提案する。

#### 2. SIC戦略提言の展開

6分野にわたるSIC戦略提言活動の成果について、それぞれの分野ごとに外部パートナーとの連携を築くことで、その社会実装の進むことを図っていく。

SIC単独では、それほど大きな組織ではないので、これを社会の流れにしていくためには、同調者を増やしていく必要がある。戦略提言を策定したことで、単にシステム化を提唱する以上の具体的なシステム化の方向性を得ていると考え、仲間作りを説教的に進めていく。

#### 3. 友好団体・機関との協業・共同プロジェクトの推進

上記2.の実現を軸として、OEPCとの連携、DADC、RRIとの3極での協働体制を構築する。一方で、その他の外部パートナーとの連携協定の拡大を図る。

#### 4. 分科会の立ち上げ計画を推進する

AI、量子技術などの最先端情報技術が、システム構築の要件そのものを代えつつあることを、SICフォーラム、実行委員会等において採り上げ、AIが社会をどう変えていくか、量子技術はどう応用できるか等々その動向を議論してきている。これらの主題を含め、AIエージェント、サーキュラーエコノミー、その他のシステム応用に関する分科会

の立ち上げを計画する。

ただし、新たな分科会の立ち上げについては、これまではニーズ指向（会員企業が抱える課題ベース）で分科会を企画してきたが、会員が抱える課題の多くは競争領域の課題となりがちで、SICの検討テーマになりづらかった。次年度は、シーズ指向でテーマを策定する方向で考えたい。

### 5. 人財育成のための研修講座の開催

SICの主要な柱の一つであるシステム人材の育成について、研修講座などの充実を図る。特に、システムアーキテクト人材の育成を目指す研修講座の立ち上げを検討する。

### 6. SIC フォーラムの継続的な開催

SIC会員への最新技術動向の紹介・普及のため、年間に6～8回程度のSICフォーラムの開催を計画する。

### 7. 主要 SIC イベント（経営者研修講座、SIC シンポジウム、システム人交流会等）ととして、

SIC会員が一堂に会し、SICの活動の存在感を実感しつつ、非会員にも広く開放する主要なイベントを立案し、計画する。

### 8. ニュースレター、ホームページ等を活用した広報の充実

魅力あるニュースレターの継続的な発行、時機を得たホームページの編集、その他のメディアを利用した外部発信を含む広報活動を、継続的に充実させる。

# 2026年度 第1回SIC理事会 (2026年3月6日)

## 資料3-2)

## システムイノベーションセンター2026年度 予算案

■2026-1/1～2026-12/31

2026年2月10日

項番	収入科目	現 会員数	2025年度予算	2025年度実績	2026年度予算案	補足説明
	(1)年会費収入					
1	・正会員	18社	¥11,800,000	¥10,450,000	¥9,200,000	
			¥400,000	¥0	¥800,000	正会員新規4社 追加 (合計22社)
2	・準会員	4社	¥250,000	¥250,000	¥300,000	
			¥200,000	¥100,000	¥500,000	準会員新規5社 追加 (合計9社)
3	・学術会員	47名	-	-	-	
4	・個人会員	9名	¥40,000	¥30,000	¥45,000	
	会費収入 小計		¥12,690,000	¥10,830,000	¥10,845,000	
5	(2)受託収入(公的機関からの調査委託費)					
6	(3)講習会等参加費(会員外からの収入含む)		¥700,000	¥148,000	¥850,000	システム人材育成活動等の参加費
7	(3)共同研究実施費用					
8	(4)利息 その他			¥35,360		
9	会費以外の収入 小計		¥700,000	¥183,360	¥850,000	
10	繰越金からの補填				¥1,900,000	繰越金の適正水準化 (注1)
11	当期 収入総計		¥13,390,000	¥11,013,360	¥13,595,000	

### ■実行予算と実績

	支出科目	2025年度予算	2025年度実績	2026年度予算	補足説明
12	(1)事業費 小計	¥7,090,000	¥3,964,747	¥5,595,000	
13	・総会運営	¥300,000	¥144,100	¥295,000	
14	・理事会・戦略委員会 運営費	¥100,000	¥65,000		
15	・SIC特別調査費	¥700,000	¥0	¥1,000,000	
16	・SIC戦略提言書 製本・配布	¥100,000	¥365,200	¥250,000	提言集等 50部 他
17	・戦略提言シンポジウム 運営費	¥1,500,000	¥1,117,382	¥350,000	
18	・実行委員会 運営費	¥80,000	¥58,100	¥100,000	
19	・分科会・WG・人材育成協議会の運営費				
20	分科会謝礼	¥480,000	¥0	¥450,000	
21	活動費(WG活動 調査委託費)	¥500,000	¥0	¥400,000	
28	・経営者研修講座 パネルディスカッション	¥900,000	¥700,887		
22	・ケーススタディによるシステム構築講習会				
23	・システム塾運営費			¥500,000	
24	・システム人交流会	¥700,000	¥574,031		
25	・研修講座 講習会開催費	¥400,000	¥0	¥800,000	
26	・SIC産学交流会運営費		¥0		
27	・SICフォーラム運営費 戦略フォーラム	¥300,000	¥89,097	¥330,000	
29	・広報活動 ニュースレター発行、HPによる情報発信、その他	¥500,000	¥351,850	¥400,000	
30	広報資料(パンフレット等)作成費	¥100,000	¥58,290	¥150,000	
31	広報強化 (プレス発表、Youtube等)による	¥130,000	¥33,000	¥50,000	
32	SICの広報誌	¥100,000	¥113,300	¥100,000	論説集 印刷配布
33	・外部団体との連携活動の強化	¥30,000	¥0	¥150,000	RRI, IPA 連携の体制構築費
34	・SIC活動のシステム化情報基盤の高度化 (Teams, ZOOM, Adobe等)の活用費	¥100,000	¥224,510	¥200,000	
35	・租税公課	¥70,000	¥70,000	¥70,000	
36	(2)管理費 小計	¥8,370,000	¥8,253,343	¥7,500,000	
37	・事務所 賃貸・共益費	¥3,240,000	¥2,945,764	¥1,950,000	B-19事務所の管理費のみ
38	・人件費	¥4,900,000	¥5,033,968	¥5,200,000	
39	・事務管理の充実(備品類の整備等)	¥70,000	¥24,750	¥70,000	
40	・事務所 消耗品、その他諸経費	¥30,000	¥34,569	¥20,000	
41	・保守費	¥30,000	¥103,400	¥30,000	
42	・旅費・交通費 国内/海外	¥10,000	¥18,940	¥50,000	
43	・郵送費	¥20,000	¥31,047	¥100,000	
44	・通信費	¥30,000	¥42,645	¥40,000	
45	・雑費	¥10,000	¥2,750	¥10,000	
46	・振込手数料	¥30,000	¥15,510	¥30,000	
47	(3)予備費	¥1,000,000	¥0	¥500,000	
48	実績及び実行予算計	¥16,460,000	¥12,218,090	¥13,595,000	
49	当期収支損益	▲3,070,000	▲1,204,730	0	

### ■繰越金 期末正味財産

	2025年度予算	2025年度実績	2026年度予算		
50	年度収支額	▲3,070,000	▲1,204,730	0	
51	期首繰越金	¥25,314,266	¥25,314,266	¥23,646,710	繰越金取崩し額190万
52	期末繰越金	¥22,244,266	¥23,646,710	¥21,746,710	

注記：前年度繰越金から190万を収入予算として作成。

## 2026年度 第1回SIC理事会（2026年3月6日）

【決議事項：4】 2026年度 SIC 実行委員の承認  
2026年度の実行委員化の構成について承認を求める。

### 資料4) 実行委員会委員名簿（2026年度）

NO	委員区分	所属	氏名	会員種別
1	実行委員長	元（独）情報処理推進機構	松本 隆明	SIC 理事
2	実行委員	株式会社構造計画研究所	中野 一夫	正会員
3	実行委員	株式会社野村総合研究所	藤野 直明	正会員
4	実行委員	マツダ株式会社	折本 皇一郎	正会員
5	実行委員(正)	株式会社東芝	田島 正憲	正会員
6	実行委員(副)	株式会社東芝	小平 直朗	正会員
7	実行委員	横河電機株式会社	牧野 泰丈	正会員
8	実行委員(正)	日立製作所研究開発グループ	谷 繁幸	正会員
9	実行委員(副)	日立製作所研究開発グループ	高橋 由泰	正会員
10	実行委員(正)	ロジスティード株式会社	櫻田 崇治	正会員
11	実行委員(副)	ロジスティード株式会社	徳永 直史	正会員
12	実行委員	東京大学	青山 和浩	学術会員
13	実行委員	千葉商科大学	寺野 隆雄	学術会員
14	実行委員	東芝デジタルソリューションズ株式会社	大道 茂夫	個人会員
15	実行委員	株式会社コマースロボティックス	吉武 宏昭	個人会員
16	実行委員	電腦バンク株式会社	浦田 敏	準会員
17	実行委員	(公社)日本工学会	高木 真人	個人会員
18	実行委員	RRI アドバイザー	水上 潔	個人会員
19	実行委員	SIC 事務局長	出口 光一郎	事務局員
	事務局	SIC 事務局次長	久保 忠伴	事務局員

【協議事項：5】 2026年度SICの活動体制について

5-1) 会員の状況

2026年3月1日の会員の状況は下記の通り。

正会員 17社 準会員 4社 個人会員 9名 学会会員 48名

5-2) 会員

正会員

NO	SIC会員企業名	備考
1	SCSK株式会社	
2	NTTドコモソリューションズ株式会社	
3	株式会社NTTドコモ	
4	株式会社構造計画研究所	
5	株式会社国際電気	
6	株式会社JSOL	
7	株式会社東芝	
8	東京電力パワーグリッド株式会社	
9	日鉄ソリューションズ株式会社	
10	株式会社ニューチャーネットワークス	
11	株式会社野村総合研究所	
12	株式会社日立産業制御ソリューションズ	
13	株式会社日立システムズ	
14	株式会社日立製作所 研究開発グループ 社会システムイノベーションセンタ	
15	マツダ株式会社	
16	横河電機株式会社	
17	ロジスティード株式会社	

準会員

1	電腦バンク株式会社	インキュベーション会員
2	NEXT WIND 合同会社	インキュベーション会員
3	アメリス株式会社	人財育成限定会員
4	東京ガス株式会社	人財育成限定会員

## 5-3) 学術協議会

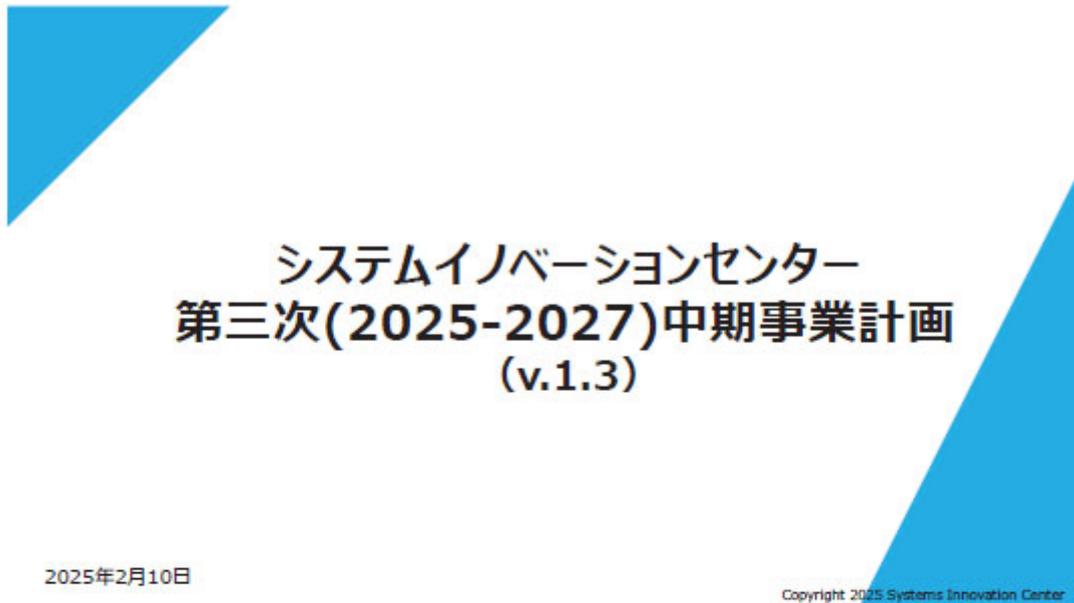
学術協議会		
主査	藤田政之 教授	東京大学、制御工学
副主査	白坂成功 教授	慶應義塾大学、システムデザイン&マネジメント
メンバー		
関西大学	黒江康明 客員教授	システム学、制御理論とその応用、知能情報処理
京都大学	榎木哲夫 名誉教授	システム工学,機械工学,人間機械系,デザイン学
	喜多 一 教授	社会シミュレーション、情報教育
	池田裕一 教授	データ科学、ネットワーク解析、政策科学
慶應義塾大学	中野 冠 SDM顧問	システムデザイン&マネジメント、デザイン工学
	前野隆司 教授	システムデザイン&マネジメント、人間工学
	西村秀和 教授	システムデザイン&マネジメント、モデル学
	滑川 徹 教授	分散協調制御、超Smart City研究
	高橋大志 教授	ビジネススクール、金融工学
神戸大学	貝原俊也 教授	エネルギーシステム論、情報科学
東京国際大学	松尾博文 教授	経営学,オペレーションズ・マネジメント
都立産業技術 大学院大学	川田誠一 名誉教授	システム工学
	橋本洋志 教授	サービス工学、データサイエンス
	瀬戸洋一 名誉教授	サイバーセキュリティ、リスクマネジメント
	中鉢欣秀 教授	環境情報学、ソフトウェア工学
筑波大学	倉橋節也 教授	経営システム科学、シミュレーション経営学
東京大学	吉村 忍 教授	システム創成学
	梅田 靖 教授	精密工学、サステイナブル工学
	太田 順 教授	精密工学専攻 人工物工学研究、ロボット学
	古田一雄 教授	技術経営戦略、レジリエンス工学
	松尾 豊 教授	人工知能、人工物工学
	山本義春 教授	教育生理学
	西成活裕 教授	数理創発システム、渋滞学
	青山和浩 教授	システム創成学
	稲見昌彦 教授	複合現実感、ロボット工学、リアルメディア
	中村 宏 教授	高品質コンピューティング

## 2026年度 第1回SIC理事会（2026年3月6日）

東京工業大学	寺野隆雄 名誉教授	AI、システム理論
	小野 功 教授	進化計算・最適化
東京農工大学	澁澤 栄 特任教授	リアルタイムセンシング、IoT精密農業、学習支援
統計数理研究所	椿 広計 所長	品質管理、統計科学
	田村義保 名誉教授	計算統計学、時系列解析
大阪大学	鎗水徹 教授	「経営とIT」戦略
一橋大学	鷺田祐一 教授	経営管理専攻、マーケティング、未来洞察
北陸先端科学技術 大学院大学	小坂満隆 名誉教授	サービス工学、システム科学
	神田陽治 教授	知識マネジメント、社会情報工学
	永井由佳里 教授	知識工学、ヒューマンライフデザイン
横浜国立大学	田名部元成 教授	経営システム科学、マネジメント・サイエンス
早稲田大学	岸 知二 教授	ソフトウェア工学
	高橋真吾 教授	経営システム、シミュレーション
	鷺崎弘宜 教授	人間行動モデル、シミュレーション
青山学院大学	玉木欽也 教授	グローバル製品サービス戦略
学習院大学	遠藤薫 名誉教授	社会学、社会情報学、メディア論、計算社会科学
	河合亜矢子 教授	サプライチェーンマネジメント
芝浦工業大学	後藤裕介 准教授	意思決定、シミュレーション
桃山学院大学	大村鍾太 准教授	サプライチェーンコーディネーション、DX
名古屋大学	下田真吾 特任教授	ロボティクス、生物の運動制御、人工知能

【付録1】

a-1) SIC第3次(2025年度～2027年度)中期計画



SIC事業のコンセプト

SICの3本の柱

- 企業におけるシステム化の課題解決に向けた支援
- 優れた社会システムの構築に向けた推進支援
- 人材育成

継続と深化

2019年

日本のシステム化の揺籃期を担う初動組織となる。

【第一次中期計画】

- <システム化力による産業界強化>
- <システム化のブランドデザイン提示>
- <システム化人材育成強化>
- <センター体制強化>

2022年

日本が直面する課題の達成に向けシステム化の有効性を社会に示す。

【第二次中期計画】

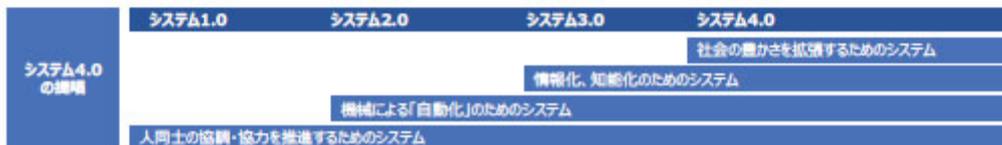
- ・モノのシステムから人を要素とするシステムへ
- ・学との連携を強化（社会システム科学の創設）
- ・人材育成のプログラムの最適化
- ・SoS、Ecosystem/デジタルシステムなど、現実の社会システムの実務課題への対応
- ・少子高齢化など、喫緊の社会課題の対応へのシステム化アプローチの有効性を示す

2025年

日本の各分野での「卓越システム」の構築の推進を通して、人中心社会の豊かさを協創するシステム4.0の提唱。

【第三次中期計画】

- ・システムの「質」を重視しよう - 「社会にとっての良いシステム」を再定義する → 卓越システムの構築普及の支援
- ・システム化は何のためかを問い、人を中心とした社会の豊かさを拡張する「システム4.0」を、各分野に普及・推進する
- ・データ共有による「システム産業」の創出と活性化を、豊かな社会の協創に向けて促す



## 第三次中期計画の要点

### SICの活動における3本の柱

- 企業におけるシステム化の課題解決に向けた支援
- 優れた社会システムの実装に向けた推進支援
- 人材育成

を引き続き堅持し、製造業をはじめとする社会全域において、新しい価値を創造し、機能を高めるシステムを作り出すため、さまざまな領域におけるシステム化推進の民間主導の活動母体として、産業界、学界、行政と連携して、国際的な競争力向上に寄与する活動を、引き続き、継続する。  
さらに、新たな社会ニーズに応える分科会の設立等による、これまでに構築してきた現代システム論の体系化を図り、SICの体制の強化をめざす。

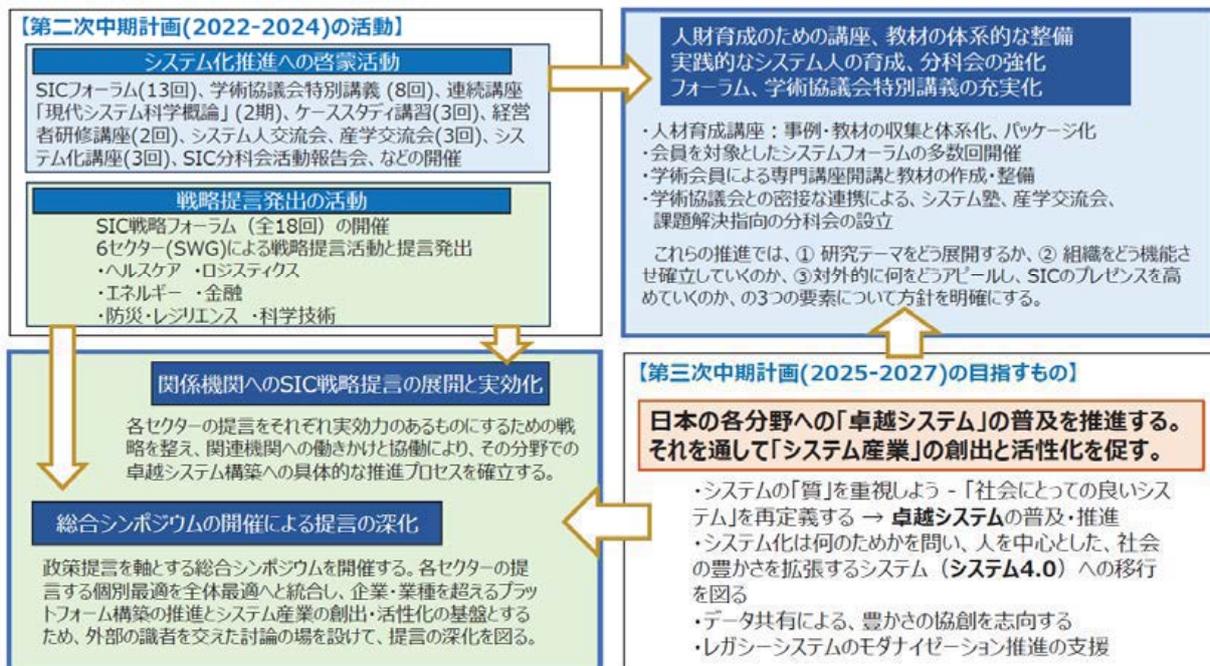
その上で、第三次では、特に「良いシステムの構築」を呼びかけ、次の目標を掲げる。

- ・ システムの「質」を重視して、システム化は何のためかを問い、「卓越システム」を再定義して、人を中心とした社会の豊かさを拡張する「システム4.0」を、各分野に普及・推進する。
- ・ データ共有による豊かさの協創を図り、それを通して「システム産業」の創出と活性化を促す。
- ・ システムのモダナイゼーション推進を通して、「良いシステム」を日本中に行きわたらせる。

◎人を中心とする社会の「豊かさ」、「質」は、システム論的には、「卓越したシステムの下で、データの共有が図られる」ことに帰着する。

「システム4.0」については、SICニュースレター vol.16.2 2024.12.3発行を参照。

### 【第二次中期計画の活動実績からの継承】



【付録2】

a-2) 参考資料：SIC分科会設立企画書

## SIC 分科会企画書

日本版 CPHS（Cyber-Physical Human Systems）をボトムアップで構成する人間中心の  
AI エージェント研究

分科会名称： 人間中心の AI エージェント分科会

主査 （教授 ○○）

令和8年2月

### § 1 背景と目的

デジタル技術が私達の生活に広く浸透し、不可欠な存在になる現在、社会は多様化し、様々な価値観が生まれている。社会全体が公平性を保ちつつ様々な人の利害に対応しながら持続的に発展していくには、広い視野に立ち、複数の観点からの解決策が求められている。課題に取り組む学問や研究においては、細分化が進み、各分野に膨大な専門知識が蓄積されている中、研究成果を社会に実装し数々の課題を解決に導いていく企業においては、一つの分野を深く掘り下げると同時に、他の分野に目が届かなくなる危険性を鑑みる必要がある。多様化が進む社会に対し、そこでの課題に取り組むには個々のシステムの課題に加え、複数のシステムが連携しあってより大きなシステムとして考えるシステムオブシステムズ（System of Systems - SoS）としての課題として捉えることが重要となってくる。

このような背景の中、生成AIをはじめとするAI技術の急速な発展により、AIエージェントが人間の意思決定や業務遂行を支援する時代が到来している。特に、ChatGPTやClaude、Geminiなどの大規模言語モデル（LLM）を基盤としたAIエージェントは、単なる情報検索や文章生成に留まらず、複雑なタスクの自律的な実行、マルチエージェントによる協調作業、さらには人間との対話を通じた問題解決など、その応用範囲は急速に拡大している。

しかしながら、AIエージェントの活用においては、技術的な可能性の追求だけでなく、利用者の視点から見た実用性、信頼性、安全性、公平性といった観点が極めて重要となる。AIエージェントが人間と協働し、社会の中で真に有用な存在となるためには、人間中心の設計思想に基づいた検討が不可欠である。また、実際の利用場面においては、AIエージェントが他の業務システムやデータ基盤と連携しながら機能することから、SoSの観点を踏まえた設計や評価も求められる。

本分科会では、日本版 CPHS（Cyber-Physical Human Systems）の構築をボトムアップで推進するという独自のアプローチを採用する。従来のトップダウン型のシステム設計ではなく、参加会員企業が抱えるAIエージェント活用における具体的な課題を抽出し、実際の利用現場から出発して解決策を共創することを目的とする。また、海外の先進事例や研究動向を調査し、グローバルな視点から日本企業が取るべき戦略を明らかにする。さらに、利用者サイドの視点を重視し、AIエージェントの信頼性、安全性、公平性、そしてそれらを支える情報基盤のあり方について実践的な議論を行う。特に、AIエージェントが動作する基盤となるデータ連携基盤の整備については、データの質や偏

り、アクセス性が AI エージェントの性能と信頼性に直結することから、本分科会の重要な柱として検討を行い、提言としてまとめることを目指す。

### § 2 検討項目

以下について検討を実施する。

#### (1) AI エージェント活用の課題抽出と解決策の検討

参加会員企業から AI エージェントの活用に関する課題をヒアリングし、具体的なユースケースを整理する。業務効率化、意思決定支援、顧客対応、創造的業務支援など、多様な活用領域における実践的な課題と解決アプローチを検討する。

#### (2) 利用サイドからみた AI エージェントの信頼性・安全性・公平性の検討

AI エージェントを実際に利用する立場から、以下の観点について議論を深める。

- ・ AI エージェントの出力の信頼性をどのように担保するか
- ・ 誤情報や有害な出力を防ぐ安全性メカニズム
- ・ 特定の属性に偏らない公平性の確保
- ・ 説明可能性 (Explainability) とトレーサビリティ
- ・ 人間による監督と介入のあり方

#### (3) AI エージェントが立脚する情報基盤（データ基盤）の検討

AI エージェントの性能と信頼性は、学習データや参照データの質に大きく依存する。以下の観点からデータ連携基盤のあり方を検討する。

- ・ データの偏り（バイアス）の検出と軽減策
- ・ 企業間・業界間でのデータ連携の仕組み
- ・ データガバナンスとプライバシー保護
- ・ リアルタイムデータと過去データの統合
- ・ マルチモーダルデータ（テキスト・画像・音声・センサーデータ）の扱い

#### (4) 日本版 CPHS のボトムアップ構築アプローチの探求

トップダウン型の設計ではなく、現場のニーズと実践から積み上げる日本独自の CPHS 構築手法を確立する。

- ・ 現場起点の課題抽出とソリューション設計
- ・ 段階的な実装と検証のアプローチ
- ・ 企業間・業界間の連携モデル
- ・ 人間と AI エージェントの協働インターフェース

#### (5) 海外動向調査とベンチマーキング

欧米やアジアにおける AI エージェント活用の先進事例、規制動向、標準化活動に

ついて調査を実施する。

- ・主要企業の AI エージェント戦略
- ・AI 倫理・ガバナンスの枠組み（EU AI Act 等）
- ・学術研究の最新動向
- ・国際標準化の動き（ISO/IEC 等）

### § 3 本分科会のオリジナリティと参加価値

#### 【活動のオリジナリティ】

##### （1）日本版 CPHS のボトムアップ構築

従来のシステム設計が技術仕様や理論モデルから出発するのに対し、本分科会では実際の利用現場の課題を起点とする。参加企業の具体的なニーズと実践を積み重ねることで、日本の企業文化や業務特性に適合した CPHS のあり方を探求する。これは、グローバルな標準やフレームワークを単に輸入するのではなく、日本独自の知見を国際的に発信する基盤となる。

##### （2）AI エージェントを支えるデータ連携基盤の整備

多くの AI エージェント研究がモデルやアルゴリズムに焦点を当てる中、本分科会ではその基盤となるデータ連携基盤に注目する。企業間・業界間でのデータ共有、データの質保証、偏りの検出と是正など、AI エージェントが実社会で信頼されるために不可欠な情報インフラのあり方を検討する。

#### 【参加会員企業への価値訴求】

##### （1）AI エージェント活用における実践的知見の獲得

「AI エージェントをどう使ったらよいか」という根本的な問いに対し、他社の事例や失敗も含めた率直な情報交換を通じて、自社の戦略立案に活かせる知見を得られる。また、課題解決のためのフレームワークや評価手法を共同開発することで、実装のスピードを加速できる。

##### （2）海外動向の把握とグローバル競争力の強化

海外調査を通じて、世界の最新動向、規制環境、競合企業の戦略を把握できる。これにより、ガラパゴス化を避け、グローバル市場で通用する AI エージェント活用戦略を構築できる。

##### （3）業界横断的なネットワークの構築

異業種の参加企業との議論を通じて、新たなビジネス機会の発見や、セクターカップリングによるイノベーション創出の可能性が広がる。

### （4）AI ガバナンスと倫理対応の先行的取り組み

信頼性、安全性、公平性といったAI ガバナンスの重要課題について、規制が本格化する前に対応策を検討できる。これは、将来のコンプライアンスリスクの低減につながる。

## § 4 検討フロー

検討フローについては、以下のスケジュールを参考に、参加者の議論を踏まえて定義する。まずは、AI エージェントの基礎理解と当該分科会で対象とする範囲を明確化する。次に、実践テーマを抽出すると共に、様々な取り組み結果の統合方法を議論し、定義を行う。フィールド実践を行うと共に、教訓を取り纏める。最後に、議論を総括して成果物として纏める。また、検討コミュニティを運営し、全体を通してタイムリーなコミュニケーションを図る。

## § 5 検討内容と方法

### （1）人間中心のAI エージェント設計原則の定義

- ・ Human-in-the-loop の設計思想
- ・ ユーザビリティとアクセシビリティの確保
- ・ 人間の認知特性を考慮したインターフェース設計
- ・ AI エージェントの能力と限界の明示

### （2）信頼性・安全性・公平性の評価方法

- ・ 出力の正確性評価（ハルシネーション検出等）
- ・ バイアス検出とモニタリング手法
- ・ セーフティメカニズムの検証
- ・ 継続的な性能モニタリングの仕組み

### （3）データ連携基盤のアーキテクチャ検討

- ・ データの品質管理とメタデータ標準化
- ・ プライバシー保護技術（連合学習、差分プライバシー等）
- ・ データ提供インセンティブ設計

- ・相互運用性の確保
- ・偏りのないデータセット構築のガイドライン

（４）マルチエージェント連携の検討

- ・企業間・システム間でのエージェント協調
- ・役割分担とオーケストレーション
- ・セキュリティと認証の仕組み

（５）実践対象の選定（例）

- ・製造業：生産計画最適化、品質管理、サプライチェーン調整
- ・金融業：顧客対応、リスク分析、不正検知
- ・医療・ヘルスケア：診断支援、治療計画立案、患者モニタリング
- ・小売・流通：需要予測、在庫最適化、パーソナライゼーション
- ・その他、複数業界を横断するセクターカップリング領域

（６）海外調査の実施

- ・主要国・地域の調査：米国、欧州、中国、韓国等
- ・先進企業・研究機関へのヒアリング
- ・国際カンファレンス参加とネットワーキング
- ・規制・標準化動向の調査

§ 6 スケジュールおよび検討体制

分科会のスケジュールは以下を基本とし、参加者との議論を踏まえて更新を図る。

タスク	タスク概要	2026年												2027年											
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月			
マイルストーン					▼								▼										▼		
基礎理解と課題抽出	AIエージェント基礎技術学習																								
	対象範囲の明確化																								
	課題ヒアリング・ユースケース整理																								
	海外動向調査（文献・オンライン）																								
	実践テーマ選定																								
詳細検討と実践	統合方法の議論と定義																								
	パイロット実践（フィールド実践）																								
	データ連携基盤の要件定義と検証																								
	信頼性・安全性・公平性評価FW検討																								
	勉強会・現場視察																								
成果物作成	海外調査（現地視察・カンファレンス）																								
	教訓の取り纏め																								
	取り組み結果の統合と総括																								
全体活動	CPHS構築指針策定																								
	データ連携基盤リファレンスモデル																								
	ベストプラクティス集作成																								
	提言書作成と発表																								
	提言書作成																								
	コミュニティ運営																								
	イベント（仮）																								
	イベント（仮）																								

検討体制については、参加企業の方々の意向を踏まえて定義する。主査、副主査、各テーマリーダーを参加者の中から選出し、全体調整と進捗管理を行う体制を構築する。

#### § 7 検討費用

- ・ 検討作業の経費（人件費＋交通費他）は、それぞれの所属組織で負担していただくこととする。
- ・ 海外調査等、分科会として実施する活動については、別途審議を行うものとする。

以上

## 2026年度 第1回SIC理事会（2026年3月6日）

### 【付録3】

a-3) 参考資料：SIC 第3期（2026）システム科学概論連続講座 企画案  
v. 1.2（2026.2.13）

#### 「システム科学のための情報と数理」

開催回	開催日時(仮案)	テーマ	講師	概要
6月 第1回	6月5日(金) 15:00~18:00 オンライン	システム科学の基礎概念としての数理基盤(情報と通信の理論)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・システム科学の情報科学・数理科学との接点</li> <li>・システム科学の基盤としての情報・通信の基本原理</li> <li>・信号・パターンのデジタル情報処理</li> </ul>
7月 第2回	7月3日(金) 15:00~18:00 オンライン	大規模動的システムと数理モデル(ネットワーク化システムの制御)	石井秀明(東京大学)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・動的システムの基本(連続・離散)表現</li> <li>・大規模システムの数理モデル化の方法論</li> <li>・システム制御論を軸にした大規模システムの情報・通信分野との融合</li> </ul>
7月 第3回	7月24日(金) 15:00~18:00 オンライン	データ駆動型システム科学(統計的学習理論の基礎、AI・機械学習)	岡谷貴之(東北大学)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・視覚情報を軸に多様なモダリティを統合した実世界を系統的に理解する AI の研究開発</li> <li>・AI研究による、実世界、社会に直結した課題解決への取り組み。</li> </ul>
9月 第4回	9月11日(金) 15:00~18:00 オンライン	関係性の数理科学(圏論入門:システムを関係性のネットワーク構造として視覚化する)	本多敏(慶応大学)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・システムを関係として観る:圏論の基本的な思想</li> <li>・「圏」の定義:システムの構造を記述するルール</li> <li>・構造を写す鏡:関手と自然変換</li> <li>・圏論の応用可能性:システム思考のOSをアップグレードする</li> </ul>
10月 第5回	10月16日(金) 15:00~18:00 オンライン	人間の機能拡張によるシステムへの接近(人間を中心としたシステムインタフェースのデザイン)	嵯峨智(熊本大学)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バーチャルリアリティ、オーグメンテッドリアリティなど、新しいヒューマンインタフェースシステム</li> <li>・システムを実感するメディアとしての触覚ディスプレイ、触覚センサ、力覚教示</li> <li>・人間の機能を超越する触覚センサと、人間への技能教示のための力覚ディスプレイ</li> </ul>
11月 第6回	11月20日(金) 15:00~18:00 対面講義 (終了後交流会)	情報と数理を基盤とする統合的システムデザインと未来社会	藤田政之(金沢工業大学)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物理AIが拓くサイバー・フィジカル・ヒューマン・システムの未来</li> <li>・情報と数理を基盤とするCPSと人間(Human)を繋ぐシステムの構築について</li> </ul>